

検証の方向性(案)

2025 年 9 月

知床ヒグマ対策連絡会議

1 検証の体制

事故の検証は、「知床半島ヒグマ対策連絡会議」で行う。同会議は、「知床世界自然遺産 地域連絡会議」の部会に位置づけられ、第二種特定鳥獣管理計画「北海道ヒグマ管理計画」の地域計画である「知床半島ヒグマ管理計画」に基づき、知床のヒグマ対策の推進やモニタリング等の実施を目的として設置されているものである。同会議の構成団体と本件事故対応に関わる主な役割分担を下表に示す。

事故の検証や再発防止策の策定にあたっては、専門的な観点からの助言やチェックを受けるため、有識者により構成される知床世界自然遺産地域 科学委員会 ヒグマワーキンググループ（座長：佐藤喜和 酪農学園大学教授）および適正利用・エコツーリズムワーキンググループ（座長：愛甲哲也 北海道大学教授）の助言を得ながら検討を進める。

表 知床半島ヒグマ対策連絡会議の構成員と本件事故対応に関わる役割分担

構成機関	本件事故対応に関わる役割分担
環境省釧路自然環境事務所	国立公園管理に関わる事務、専門家（有識者）との調整
林野庁北海道森林管理局	国有林野に関わる事務
北海道	事故調査および試料等の分析（ヒグマ対策室）
斜里町	ヒグマ対策連絡会議の開催（事務局）、ヒグマ人身事故斜里町対策本部の運用、被害者支援
羅臼町	登山者（羅臼側）への注意喚起、町民等への情報発信
標津町	町民等への情報発信
公益財団法人 知床財団	事故調査、事故情報とりまとめ、ヒグマ対策に関わる情報提供

2 事故原因の要因整理

事故原因について、事故の発生に至った直接要因、登山者の意識、登山者に対する情報発信や注意喚起、登山道の管理などの間接要因、知床半島におけるヒグマ個体群の動態の変化、利用者の行動といった背景要因の3つの観点から整理する。

3 対応の検証の方向性

対応の検証は、以下の3つの観点から行う。

(1) 事故対応について

- 登山道における問題個体確認時の対応
- 登山利用者への情報提供・注意喚起
- 事故発生時の体制

(2) 事故発生の背景について

- 問題個体対応
- 知床自然遺産利用者全体への情報提供

(3) 知床半島ヒグマ管理計画について

4 再発防止策の検討

検証結果を踏まえ、再発防止に向けて取りうる以下のような対応を整理する。(下記は現時点で考えられる対応の選択肢の一例)

- 事前準備や行動形態、装備といった登山者に求める事項（登山のルール・規範）
- ルールを知らしめ、行動変容に結び付けるリスク情報の提供のあり方（情報提供）
- 入下山管理、レクチャー受講、装備チェックといった強度の高い管理のあり方（利用者管理、アクセスコントロール）
- 登山道における問題個体確認時の対応の判断基準、協議体制、対応策の具体化（施設管理）
- 登山道におけるヒグマの追い払いや捕獲などのあり方（ヒグマ管理）
- 事故発生時の対応のあり方、被害拡大防止のための方策（危急時対応）
- 上記対策の優先度 など